

VMware vCloud Director

IaaS（サービスとしてのインフラストラクチャ）提供のための
安全なプライベート クラウドの構築

概要

VMware vCloud™ Director は、データセンターの効率性とビジネスの俊敏性を飛躍的に高める、安全なプライベートクラウドの構築を可能にします。

クラウド インフラストラクチャに最適なプラットフォームである VMware vSphere™ との併用により、VMware vCloud Director は、仮想インフラストラクチャのリソースをプールし、カタログ ベースのサービスとしてユーザーへ提供することで、既存のデータセンター向けのクラウド コンピューティングを実現します。

メリット

- ビジネスの俊敏性の向上：ユーザーは、事前構成済みサービスまたはカスタム サービスを、クリック 1 つで展開可能
- マルチテナント環境におけるセキュリティと管理性の維持：ポリシー ベースのユーザー管理と VMware vShield™ セキュリティ テクノロジーを使用することで、これを実現
- 効率的なリソース提供によるコスト削減：仮想データセンターとして、組織内部へ効率的にリソースを提供することで、統合の推進と管理の簡素化を実現
- 既存の投資とオープン スタンドールの活用：クラウド間の相互運用性とアプリケーションの可搬性を保証

VMware vCloud Director について

VMware vCloud Director は、企業が安全なマルチテナントプライベート クラウドを構築するためのソフトウェア ソリューションです。インフラストラクチャ リソースを仮想データ センターにプールし、Web ベースのポータルとプログラム可能なインターフェイスを介して、完全に自動化されたカタログ ベースのサービスとしてユーザーに公開できます。

VMware vSphere と VMware vCloud Director を併用して、費用対効果に優れた安全なプライベート クラウドを構築することで、社内 IT 部門はビジネスをサポートする真のサービス プロバイダとして機能できるようになります。これにより、技術革新と俊敏性を実現しながら、IT 効率の向上と安全性の強化が可能になります。また、このソリューションでは、お客様が既存の投資を活用でき、クラウド間でキャパシティを拡張できる柔軟性が提供されるため、クラウド コンピューティングへの実践的な移行が実現します。

VMware vCloud Director の仕組み

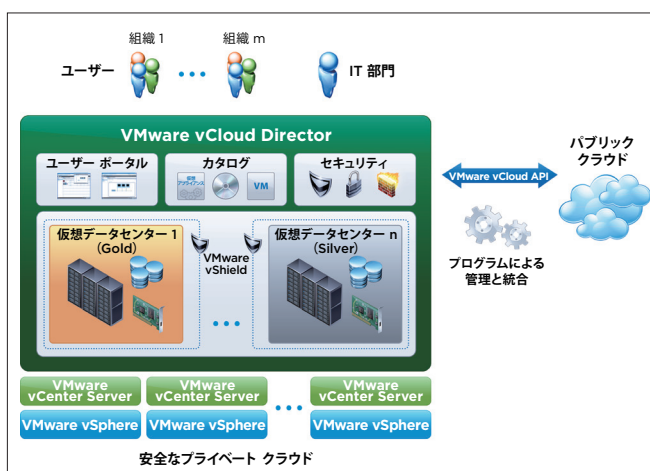
IaaS（サービスとしてのインフラストラクチャ）の提供

VMware vCloud Director により、IT 部門は仮想データセンターとしてリソースを社内ユーザーに提供できます。コンピューティング、ストレージ、およびネットワーク キャパシティを仮想データセンターに論理的にプールすることで、IT 部門は、IT サービスの提供から使用までを完全に抽象化し、より効率的にリソースを管理できるようになります。

IT 部門はユーザーや組織に対し、個々に分離した物理インフラストラクチャを提供する代わりに、共通の物理インフラストラクチャのリソースを使用する独立した仮想データセンターを提供できます。バック エンドでこれらの物理リソースをプールすることで、ハードウェアの使用率が向上し、統合が促進されます。また、基盤となるインフラストラクチャを複数の階層にプールして、異なるサービスレベルや価格でユーザーに提供できます。

IaaS（サービスとしてのインフラストラクチャ）の使用

VMware vCloud Director は、ユーザーが IT サービスを利用する方法も変革します。もう、サービス デスクのサポートを待つ必要はありません。アプリケーションと事業部門の担当者は、セルフ サービスポータルを利用して専用の仮想データセンターへアクセスできます。VMware vCloud Director により、ユーザーは Web ポータルおよびプログラム インターフェイスを通じて、カタログ ベースのサービスとしてこれらのリソースを使用できるようになります。



VMware vCloud Director により、IT 部門は安全なプライベート クラウドを構築して、カタログ ベースのサービスとして IT リソースを提供できるため、ユーザーはこれを必要に応じて使用できるようになります。

IT 部門は、予約されたプールの範囲で必要な分のキャパシティを利用可能な、同じインフラストラクチャを利用した複数の利用モデルを定義できます。これらのモデルは、コストの詳細を明確化し、利用率を詳細に監視できる VMware vCenter™ Chargeback によって、適切なコスト算出モデルとして提供されます。結果的に IT 部門は、既存の LDAP ディレクトリ サービスを利用した、ロール ベースのアクセス コントロールによる権限、割り当て、およびリリースの管理を維持できます。

VMware vCloud Director の活用

この新しいモデルでは、IT 部門は企業のクラウド サービス プロバイダとして機能し、セキュリティや管理性を維持しながら、クラウド コンピューティングのメリットを活用できます。IT 部門は、ユーザーにこれまでにない即応性と俊敏性を提供しながら、統合の促進、作業の自動化、および管理の簡素化により、コストを削減することが可能です。これらはすべて、人材およびテクノロジーに対する既存の投資を活用した、費用対効果の高い方法で実現されます。

VMware vCloud Director は既存の VMware vSphere 環境と統合し、柔軟性の高い標準ストレージ、仮想マシン間の OSI 第 2 層（データ リンク層）接続、およびブロードキャストなどのネットワーク インターフェイスを提供することで、既存のアプリケーションや将来提供されるアプリケーションをサポートします。

また、オープン スタンドの活用により柔軟な展開が維持され、ハイブリッド クラウドの実現が可能になります。VMware vCloud Director をベースとしたクラウド サービスを提供するサービス プロバイダにより、幅広いパートナー エコシステムが構築されています。お客様はこれを利用してデータセンターのキャパシティを拡張し、安全かつ互換性のあるパブリック クラウドをインストール、プライベート クラウドと同様に容易に管理できます。

主な機能

- **仮想データセンターの作成**：仮想データセンターは、処理機能、ストレージ、およびネットワーク キャパシティが含まれる論理コンポーネントです。これにより、インフラストラクチャ サービスと基盤となるリソースとの間が完全に抽象化されます。
- **マルチテナント環境のサポート**：管理者はユーザーを、業務部門や子会社など、ポリシー グループごとに分けることが可能です。それぞれのグループは独立した仮想リソースを持ち、個別の LDAP 認証を使用し、特定のポリシー制御と独自のカタログを保持します。これらの機能により、安全なマルチテナント環境と、インフラストラクチャの安全な共有が実現します。

- **vShield セキュリティ テクノロジー**：セキュリティ境界の保護、ポート レベルのファイアウォール、ネットワーク アドレス変換、DHCP サービスなどの vShield Edge テクノロジーを利用することで、仮想化対応のセキュリティ、アプリケーション展開の簡素化、および標準の準拠に必要なセキュリティ境界の適用が可能となります。完全な vShield Edge ソリューションにアップグレードすることにより、サイト間での VPN 接続、ネットワークの分離、および Web のロード バランシングなど、高度なサービスを提供できます。
- **インフラストラクチャ サービス カタログ**：ユーザーは、中央のカタログからボタンをクリックするだけで、仮想アプライアンス、仮想マシン、オペレーティング システム イメージ、およびその他のメディアを含む、事前構成済みのインフラストラクチャとアプリケーション サービスを展開して利用できます。これにより、IT 部門によるサービスの標準化や、トラブルシューティング、パッチ適用、および変更管理の簡素化が可能になります。
- **セルフ サービス ポータル**：ユーザーは、使いやすい Web ポータルから、カタログと仮想データセンターに直接アクセスできます。
- **VMware vCloud API とオープンな仮想化フォーマット**：vCloud API は、オープンな REST ベースの API です。これにより、vApp のアップロードとダウンロード、カタログ管理、およびその他の操作など、クラウド リソースを利用するための作業をスクリプトによって処理できるようになります。vCloud API は、OVF (Open Virtualization Format) を使用して、クラウド間の基本的な転送を可能にします。これにより、アプリケーションのプロパティやネットワーク構成などの情報をクラウド間で維持できます。
- **自動化とオーケストレーション**：API を VMware vCenter™ Orchestrator プラグインと併用し、その他のオーケストレーションやサービス管理ソフトウェアと連携して活用することで、管理者は定常作業の自動化、ITIL ワークフローの構築、および複雑な操作のスクリプト化を容易に行うことができます。

詳細情報

VMware 製品をご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

www.vmware.com/jp/products

仕様および要件の詳細については、製品のドキュメントを参照してください。

